

表 6 - 1 年齢（5歳階級）別にみた死亡数・死亡率（人口10万対）

年齢階級	死 亡 数			死 亡 率		
	平成26年	平成25年	対前年増減	平成26年	平成25年	対前年増減
総数	1 273 020	1 268 436	4 584	1 014.9	1 009.1	5.8
0～4歳	2 884	2 958	△ 74	55.9	57.0	△ 1.1
5～9	460	453	7	8.7	8.5	0.2
10～14	501	467	34	8.8	8.1	0.7
15～19	1 205	1 268	△ 63	20.3	21.2	△ 0.9
20～24	2 320	2 423	△ 103	38.7	40.4	△ 1.7
25～29	2 873	2 894	△ 21	44.5	43.4	1.1
30～34	3 896	3 909	△ 13	53.5	52.6	0.9
35～39	5 877	6 436	△ 559	69.0	72.2	△ 3.2
40～44	10 064	10 124	△ 60	104.4	106.4	△ 2.0
45～49	13 728	14 053	△ 325	161.9	169.7	△ 7.8
50～54	19 840	20 581	△ 741	258.1	269.5	△ 11.4
55～59	30 313	31 365	△ 1 052	399.9	409.6	△ 9.7
60～64	57 307	62 932	△ 5 625	642.5	655.0	△ 12.5
65～69	85 190	82 495	2 695	935.4	953.3	△ 17.9
70～74	114 863	111 419	3 444	1 455.3	1 473.4	△ 18.1
75～79	156 783	161 275	△ 4 492	2 510.9	2 568.9	△ 58.0
80～84	221 045	224 159	△ 3 114	4 552.9	4 721.1	△ 168.2
85～89	249 725	244 044	5 681	8 177.0	8 363.4	△ 186.4
90～94	186 125	177 392	8 733	14 295.3	14 624.2	△ 328.9
95～99	84 120	85 282	△ 1 162	23 965.8	24 936.3	△ 970.5
100歳以上	23 413	21 979	1 434	39 021.7	39 961.8	△ 940.1

注：総数には年齢不詳を含む。

表 6 - 2 性・年齢（5歳階級）別にみた死亡数・死亡率
（人口10万対）・死亡率性比（平成26年）

年齢階級	死 亡 数		死 亡 率		死亡率性比
	男	女	男	女	
総数	660 349	612 671	1 081.8	951.5	113.7
0～4歳	1 543	1 341	58.4	53.4	109.4
5～9	276	184	10.3	7.2	143.1
10～14	318	183	11.0	6.6	166.7
15～19	840	365	27.7	12.6	219.8
20～24	1 665	655	54.1	22.5	240.4
25～29	1 962	911	59.4	28.8	206.3
30～34	2 574	1 322	69.5	37.0	187.8
35～39	3 715	2 162	85.8	51.7	166.0
40～44	6 448	3 616	131.6	76.2	172.7
45～49	8 751	4 977	204.5	118.5	172.6
50～54	12 953	6 887	335.6	179.9	186.5
55～59	20 277	10 036	538.0	263.4	204.3
60～64	39 568	17 739	903.6	390.6	231.3
65～69	59 066	26 124	1 345.2	553.9	242.9
70～74	77 299	37 564	2 103.9	890.1	236.4
75～79	99 064	57 719	3 591.9	1 655.3	217.0
80～84	125 621	95 424	6 482.0	3 272.4	198.1
85～89	116 957	132 768	11 388.2	6 546.7	174.0
90～94	58 662	127 463	18 862.4	12 875.1	146.5
95～99	19 023	65 097	30 682.3	22 524.9	136.2
100歳以上	3 390	20 023	42 375.0	39 260.8	107.9

注：1）総数には年齢不詳を含む。

2）死亡率性比＝男の死亡率／女の死亡率×100

(2) 死因

① 死因順位

平成 26 年の死亡数(死亡率(人口 10 万対))を死因順位別にみると、第 1 位は悪性新生物で 36 万 7943 人(293.3)、第 2 位は心疾患 19 万 6760 人(156.9)、第 3 位は肺炎 11 万 9566 人(95.3)、第 4 位は脳血管疾患で、11 万 4118 人(91.0)となっている(表 7)。

主な死因の年次推移をみると、悪性新生物は一貫して増加しており、昭和 56 年以降死因順位第 1 位となっている。平成 26 年の全死亡者に占める割合は 28.9%であり、全死亡者のおよそ 3.5 人に 1 人は悪性新生物で死亡している。

心疾患は、昭和 60 年に脳血管疾患にかわり第 2 位となり、その後も死亡数・死亡率ともに増加傾向が続き、平成 26 年は全死亡者に占める割合は 15.5%となっている。

肺炎は昭和 55 年に不慮の事故にかわって第 4 位となり、その後も増加傾向が続き、平成 23 年には脳血管疾患にかわり第 3 位となり、平成 26 年の全死亡者に占める割合は 9.4%となっている。

脳血管疾患は、昭和 45 年をピークに減少しはじめ、昭和 56 年には悪性新生物にかわり第 2 位となり、その後も死亡数・死亡率とも減少傾向が続き、昭和 60 年には心疾患にかわって第 3 位、平成 23 年には肺炎にかわり第 4 位となり、平成 26 年の全死亡者に占める割合は 9.0%となっている。(図 5、図 6)

図 5 主な死因別死亡数の割合(平成 26 年)

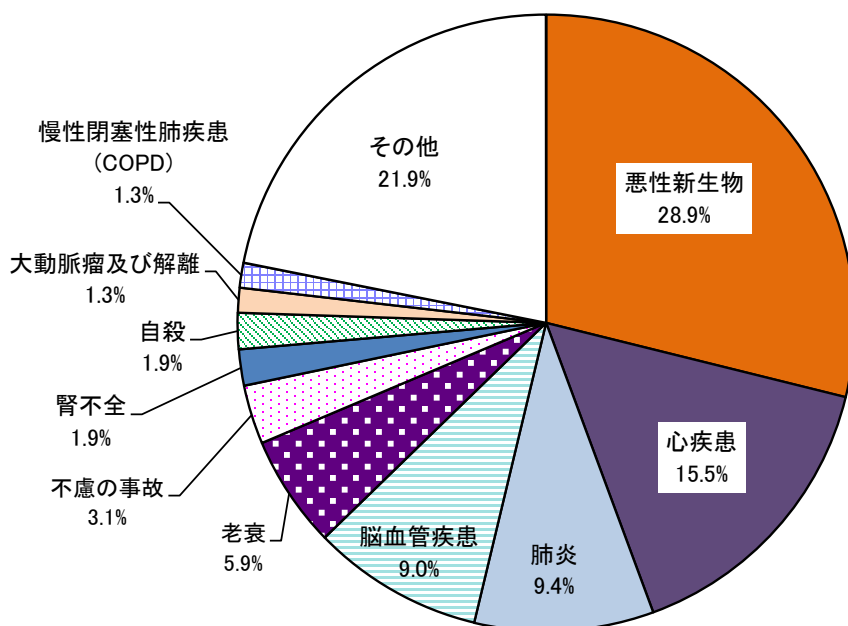
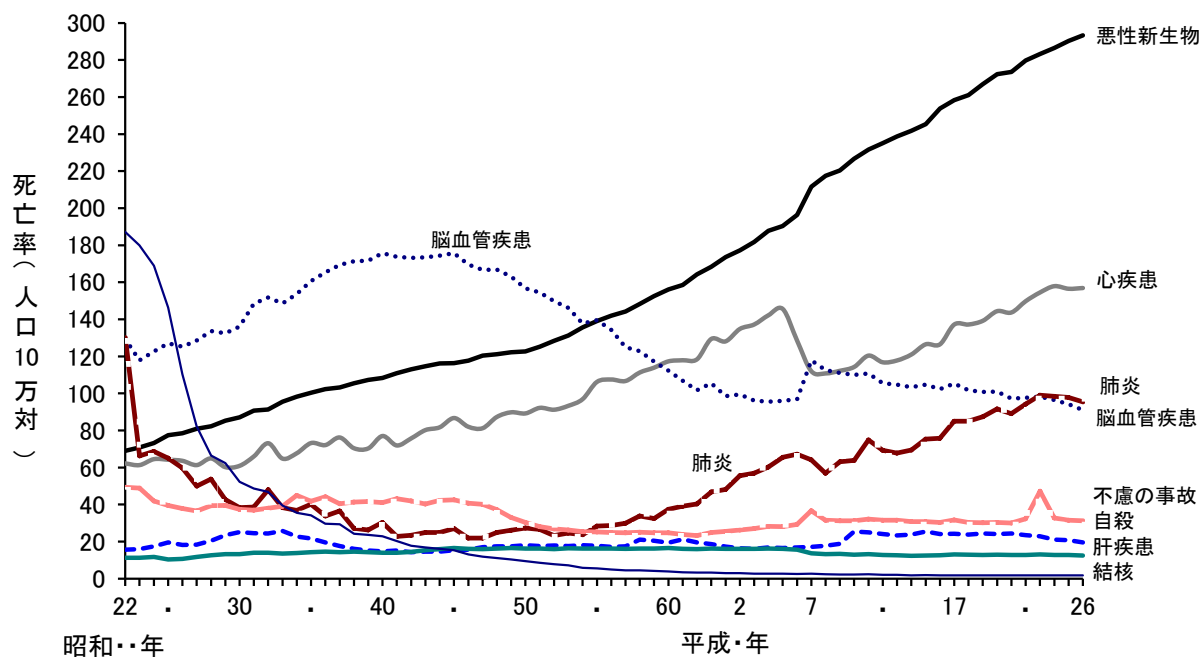


表7 性別にみた死因順位別死亡数・死亡率（人口10万対）

死 因	平成26年						平成25年	
	総 数		男		女		総 数	
	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率
全 死 因	1 273 020	1014.9	660 349	1081.8	612 671	951.5	1 268 436	1009.1
悪 性 新 生 物	(1) 367 943	293.3	(1) 218 301	357.6	(1) 149 642	232.4	(1) 364 872	290.3
心 疾 患	(2) 196 760	156.9	(2) 92 178	151.0	(2) 104 582	162.4	(2) 196 723	156.5
肺 炎	(3) 119 566	95.3	(3) 64 738	106.1	(5) 54 828	85.1	(3) 122 969	97.8
脳 血 管 疾 患	(4) 114 118	91.0	(4) 54 953	90.0	(3) 59 165	91.9	(4) 118 347	94.1
老 衰	(5) 75 340	60.1	(6) 18 297	30.0	(4) 57 043	88.6	(5) 69 720	55.5
不慮の事故	(6) 39 011	31.1	(5) 22 585	37.0	(6) 16 426	25.5	(6) 39 574	31.5
腎 不 全	(7) 24 747	19.7	(9) 11 919	19.5	(7) 12 828	19.9	(8) 25 101	20.0
自 殺	(8) 24 398	19.5	(7) 16 868	27.6	(10) 7 530	11.7	(7) 26 063	20.7
大動脈瘤及び解離	(9) 16 403	13.1	(11) 8 594	14.1	(8) 7 809	12.1	(10) 16 105	12.8
慢性閉塞性肺疾患 (COPD)	(10) 16 160	12.9	(8) 12 982	21.3	(20) 3 178	4.9	(9) 16 443	13.1

注：1) () 内の数字は死因順位を示す。
 2) 男の10位は「肝疾患」で死亡数は10 007、死亡率は16.4である。
 3) 女の9位は「血管性及び詳細不明の認知症」で死亡数は7 560、死亡率は11.7である。
 4) 「結核」は死亡数が2 099、死亡率は1.7で第26位となっている。
 5) 「熱中症」は死亡数が526、死亡率は0.4である。

図6 主な死因別にみた死亡率の年次推移



注：1) 平成6・7年の心疾患の低下は、死亡診断書（死体検案書）（平成7年1月施行）において「死亡の原因欄には、疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください」という注意書きの施行前からの周知の影響によるものと考えられる。
 2) 平成7年の脳血管疾患の上昇の主な要因は、ICD-10（平成7年1月適用）による原死因選択ルールの明確化によるものと考えられる。

② 年齢別死因

性・年齢（5歳階級）別に主な死因の構成割合をみると、5～9歳では悪性新生物及び不慮の事故、10～14歳では悪性新生物及び自殺、15～29歳では自殺及び不慮の事故、30～49歳では悪性新生物及び自殺がそれぞれ多くなっている。年齢が高くなるにしたがって、悪性新生物の占める割合が高くなり、男では65～69歳で、女では55～59歳でピークとなっている。（図7-1）

1歳未満の乳児死亡数は10年連続で3000人を下回り、死因別構成割合では、男女とも「先天奇形、変形及び染色体異常」の占める割合が多くなっている（図7-2）。

図7-1 性・年齢階級別にみた主な死因の構成割合（平成26年）

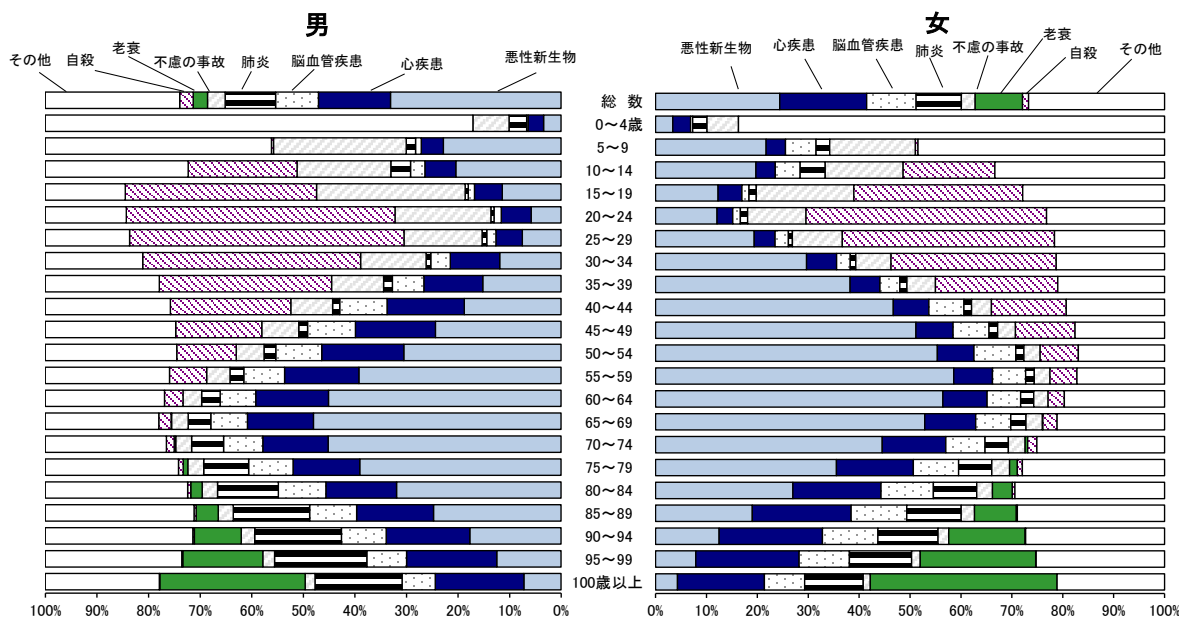
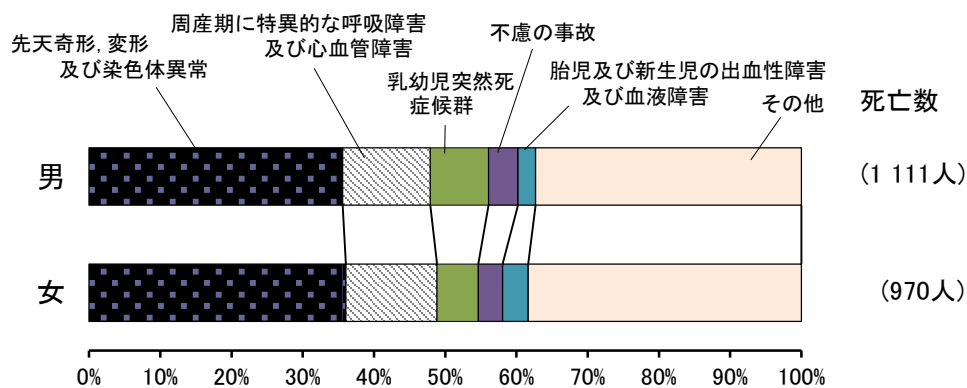


図7-2 乳児死亡の主な死因の構成割合（平成26年）



③ 部位別にみた悪性新生物

悪性新生物の主な部位別に死亡率（人口10万対）をみると、男では「肺」がもっとも高く、平成5年以降第1位となり、平成26年の死亡数は5万2493人、死亡率は86.0となっている。女では「大腸」と「肺」が高く、「大腸」は平成15年以降第1位となり、平成26年の死亡数は2万2297人、死亡率は34.6となっている。（表8、図8）

表8 悪性新生物の主な部位別にみた死亡数・死亡率（人口10万対）

部位	昭和40年	50	60	平成7年	17	23	24	25	26
死 亡 数									
男									
胃	28 636	30 403	30 146	32 015	32 643	32 785	32 206	31 978	31 472
肝	5 006	6 677	13 780	22 773	23 203	20 972	20 060	19 816	19 197
肺	5 404	10 711	20 837	33 389	45 189	50 782	51 372	52 054	52 493
大腸	3 265	5 799	10 112	17 312	22 146	24 862	25 529	25 808	26 164
女									
胃	17 749	19 454	18 756	18 061	17 668	17 045	16 923	16 654	16 418
肝	3 499	3 696	5 192	8 934	11 065	10 903	10 630	10 359	10 331
肺	2 321	4 048	7 753	12 356	16 874	19 511	20 146	20 680	20 880
乳房	1 966	3 262	4 922	7 763	10 721	12 731	12 529	13 148	13 234
子宮	6 689	6 075	4 912	4 865	5 381	6 075	6 113	6 033	6 428
大腸	3 335	5 654	8 926	13 962	18 684	20 882	21 747	21 846	22 297
死 亡 率 （ 人 口 10 万 対 ）									
男									
胃	59.4	55.6	51.1	52.6	53.0	53.3	52.5	52.3	51.6
肝	10.4	12.2	23.3	37.4	37.7	34.1	32.7	32.4	31.4
肺	11.2	19.6	35.3	54.8	73.3	82.6	83.8	85.1	86.0
大腸	6.8	10.6	17.1	28.4	35.9	40.5	41.6	42.2	42.9
女									
胃	35.5	34.4	30.6	28.5	27.4	26.3	26.2	25.8	25.5
肝	7.0	6.5	8.5	14.1	17.1	16.8	16.4	16.1	16.0
肺	4.6	7.2	12.7	19.5	26.1	30.1	31.2	32.1	32.4
乳房	3.9	5.8	8.0	12.2	16.6	19.7	19.4	20.4	20.6
子宮	13.4	10.7	8.0	7.7	8.3	9.4	9.5	9.4	10.0
大腸	6.7	10.0	14.6	22.0	28.9	32.3	33.6	33.9	34.6

注：大腸の悪性新生物は、結腸の悪性新生物と直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物を示す。

図8 悪性新生物の主な部位別死亡率（人口10万対）の年次推移

